



日本統計学会 会報 2018.7.31

No.
176

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——西郷 浩（理事長）／中野 慎也（庶務理事）
伊藤 伸介（広報理事）／古隅 弘樹（広報委員）
水野谷 武志（広報委員）
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：臨床試験スキャンダルから試験統計家認定へ：臨床試験の品質保証…………… 大橋靖雄… 1 | 8. 春季集会のポスターセッションについてのお知らせ…………… 山本 渉… 10 |
| 2. 第23回日本統計学会賞について…………… 赤平昌文… 3 | 9. 統計検定の文部科学省後援事業承認の報告…………… 赤平昌文・西郷 浩… 10 |
| 3. 第14回日本統計学会統計教育賞について…………… 赤平昌文… 4 | 10. 第2回「赤池メモリアルレクチャー賞」受賞者および記念講演が決定…………… 11 |
| 4. 第12回日本統計学会研究業績賞について…………… 赤平昌文… 5 | 11. 理事会・委員会報告（2018年5月12日）…………… 11 |
| 5. 第32回日本統計学会小川研究奨励賞について…………… 赤平昌文… 6 | 12. 社員総会報告…………… 14 |
| 6. 細谷賞の創設について…………… 照井伸彦… 7 | 13. 博士論文・修士論文の紹介…………… 18 |
| 7. 2018年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第三報）…………… 山本 渉 他… 7 | 14. 新刊紹介…………… 19 |
| | 15. 学会事務局から…………… 19 |
| | 16. 投稿のお願い…………… 20 |

1. 臨床試験スキャンダルから試験統計家認定へ：臨床試験の品質保証

大橋 靖雄（中央大学理工学部人間総合理工学科教授・東京大学名誉教授）

臨床研究を支える存在としての生物統計家、とくに臨床試験に関わる試験統計家の重要性とわが国における供給不足がようやく認識され、その育成のための支援事業が厚生労働省と日本製薬工業会の協力で2016年度から開始され、東京大学と京都大学で試験統計家育成のための修士コースが2018年度から開始された。これに呼応し筆者が会長を務める日本計量生物学会では、試験統計家認定事業を2017年度から開始した。この認識の高まりの背景に、残念なことではあるが、2013年に発覚した降圧薬臨床試験の不正行為がある。

試験統計家に対する需要は2000年前後から世界的に急増した。そして、欧米と比較した際の教育

システムの貧弱さ（というより当時は皆無の状態）がようやく日本でも指摘されるようになった。なぜわが国で試験統計家が不要であったか？わが国医学界の最近までの臨床研究軽視と根は同一と思われる。戦後渡米した日本の俊英医学者は、基礎医学研究の基盤を日本に導入した。これが花を咲かせる一方で、臨床医学の研究基盤は形成されなかった。2000年頃までの旧来の新薬開発・薬事制度がこれに拍車をかけた。他の会社が開発した製品の類似薬を先例通りに開発すれば当時の厚生省から認可され、わが国の保険制度・薬価制度の中で安定した利益を確保できたからである。製薬会社が承認申請のために行う臨床試験（治験）に

における統計学はいわば「お作法」であった。実は、学術会議が「統計学の大学院研究教育体制の改善について」という1983年の勧告の中で、欧米における生物統計学教育の発展を指摘しつつ、大学院における統計教育を充実させる提言を行っていたが実効には至らなかった。

わが国最初の生物統計学の講座は、1992年の東京大学医学部健康科学・看護学科（当時）の学科改組に伴って誕生した疫学・生物統計学講座である（筆者は1990年に疫学講座の教授に就任したが、その講座が改名したものである）。その後は、生物統計学を勉強できる大学院修士課程が、北里大学、京都大学、東京理科大学、久留米大学など全国に誕生し、大学附属病院が統計専門家を雇用する例も増えてきたが、わが国の修士学生の「生産数」は年間20-30人程度であり、供給はまだ不十分である。一方、2015年には研究者主導の臨床試験の中心となる「中核病院」が厚生労働省により制度化され、常勤2名の生物統計家の雇用が必要条件とされた。さらに2015年に新設された日本医療研究開発機構（AMED）の研究費申請にあたっては責任を有する統計家の名前を提出することが必要になった。これらの状況を受けて開始されたのが、前述の試験統計家認定制度である。

降圧薬臨床試験の不正行為とは、製薬会社の（試験に要する経費からすれば微々たる）委任経理金をもとに、この会社の製品である降圧薬を使う群と使わない群の臨床試験が5つ行われ、使用群が有意に優れる結果となった3論文がデータの信憑性欠如のため取り下げられたものである。5研究のうちこれらの研究においては製薬会社の社員が試験統計家として深く関与し、医療機関に保存してあるデータと解析されたデータの不一致も検出された。当初のマスコミ報道の論調は、身分を大学教官と偽った会社員のCOI問題とデータの信憑性（捏造）であったが、真の問題は、医学学会声明でも指摘された研究者の資質欠如と、データの品質保証がなされない体制で試験が行われたこと、盲検でない臨床試験において狭心症・心不全による入院というソフトな、つまり参加医師の

恣意が働くエンドポイントが採用されたことにある。

撤回されたLancet誌のJikei Heart Studyの論文を筆者が最初に読んだときの印象は、品質保証は大丈夫か、であった。試験統計家とされている統計家を知らず、またデータセンターの存在が確認できなかったからである。品質保証とは、臨床試験実施のシステムを構築し、日々の品質管理の行動を通じて、得られるデータの信頼性と被験者の安全を確保することである。試験統計家とは、データの解析のみではなく、臨床試験のデザインから実施、最後の出版まで、品質保証に責任を有する経験と資格を有する専門家のことである。

日本計量生物学会では不正行為の前から「臨床試験に関わる統計家が守るべき行動基準」を会員が遵守すべきガイドラインとして採用している。その案に示された10の基準の中には、情報を適切にあつかう、法やガイドラインを遵守する、不正行為を予防する、利益相反による弊害を防ぐ、という今回の不正行為を予見する項目が並んでいる。今回、データ解析に関わったとされる社員は学会会員ではなかった。

統計家以外のもうひとつの問題は、資金提供元の製薬会社や医師研究者とは独立なデータセンターが実質上機能していなかったことである。筆者が1988年に始めて日本に紹介したように、米国ではすでに1970年代から、NIHの研究費で実施される大規模臨床試験では必ず独立なデータセンターと独立データモニタリング委員会が設置される。このような研究システムの原型は、Greenberg Reportとして1967年に提案され、米国で1970年代から公的研究費によって次々と実施された大規模臨床試験はこれに基づいて運営されている。

遅ればせながら日本でも、1990年代から中立なデータセンターを設置した大規模臨床試験が行われるようになってきた。1994年から開始された厚生労働省の薬剤疫学的手法研究事業がこの例である。この一連の研究では、高脂血症のメバロチン（MEGAスタディ）などが取り上げられ、その後の模範となるべきであったが、がん領域を除けば

「標準」とはならなかった。

実は1990年ころまでは、医師の統計解析や文献検索の支援を製薬会社が無償で行うことはごく普通であり、市販薬の臨床試験のデータ管理や統計解析、論文執筆も実質的にはほとんど製薬会社で行われていた。1991年の改正独占禁止法の施行に伴い、その具体的な業界版の製薬協公正競争規約が作成され、医療関係者に対して、無償でサービスを提供することを禁止した不当景品類防止法が発効し、さらに1993年の製薬協プロモーションコードにもこれらのことが盛り込まれ、これによりサービス競争は沈静化し、大規模な製造販売後の臨床試験は、資金を提供する製薬企業とは独立な体制で行われようになってきた。このような流れを無視するか、知らない人たちが今回の降圧薬試験実施に関わったということであろう。そして2007年にプロモーションコードが改定され、それまでは学会発表を宣伝に使ってよかったものの、

ピアレビューを受けた論文雑誌しか宣伝に使えない状況となった。とくに降圧薬は、学会発表を派手に宣伝に使い販売競争を行っていた領域である。これらが不正行為の背景である。

臨床研究は、臨床家と統計家の緊密な共同作業で行われなければ成功しない。統計家は、臨床研究の場は統計理論のためにあるのではないという認識をもち、相手の土俵（臨床）に入る勇気を持たねばならない。冒頭に紹介した東京大学・京都大学の修士コースは、それぞれの附属病院以外に国立がん研究センター・国立循環器病研究センターでOJTを行う予定である。製薬会社ではなくアカデミア研究施設への就職を目標とするこの修士コースの成功は、国立大学病院が試験統計家をしっかり採用することにかかっている。このプロジェクトに対する理解が今一つの（最近まで統計学科さえ新設を許さなかった）文部科学省が最後の難関である。

2. 第23回日本統計学会賞について

赤平 昌文（日本統計学会会長）

2018年度の日本統計学会賞は、以下の2名の方々に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：大森 裕浩氏

略歴：1985年東京大学経済学部卒業。1992年米国ウィスコンシン大学マディソン校大学院統計学部Ph.D. コース終了。Ph.D. 取得。1992年米国オハイオ州立大学コロンバス校専任講師。1994年千葉大学法経学部助教授。2001年東京都立大学経済学部教授。2009年東京大学経済学部教授

授賞理由：大森裕浩氏は計量経済学、ベイズ統計学の分野への貢献は国際的によく知られ、我が国を代表する研究者である。特に、マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を用いたベイズ統計的推測法の開発およびそれらを用いた実証分析における先駆的な研究は高く評価される。効率的なアルゴリズムのMCMC法の研究など統計理論への

貢献も顕著である。また、主要な学術誌の編集や国際会議のプログラム委員を務めるなど国際的な活動にも優れている。

大森氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Watanabe, T. and Omori, Y. (2004). A multi-move sampler for estimating non-Gaussian time series models: comments on Shephard & Pitt. *Biometrika* **91**, 246-248.
- [2] Omori, Y., Chib, S., Shephard, N., Nakajima, J. (2007). Stochastic volatility with leverage: Fast and efficient likelihood inference. *Journal of Econometrics* **140**, 425-449.
- [3] Omori, Y., Watanabe, T. (2008). Block sampler and posterior mode estimation for asymmetric

stochastic volatility models. *Computational Statistics & Data Analysis* **52**, 2892-2910.

- [4] Nakajima, J. and Omori, Y. (2009). Leverage, heavy-tails and correlated jumps in stochastic volatility models. *Computational Statistics & Data Analysis* **53**, 2335-2353.
- [5] Nakajima, J. and Omori, Y. (2012). Stochastic volatility model with leverage and asymmetrically heavy-tailed error using GH skew Student's t-distribution. *Computational Statistics & Data Analysis* **56**, 3690-3704.

[2] 受賞者氏名：狩野 裕氏

略歴：1981年大阪大学理学部数学科卒業。1984年大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程退学。工学博士（1986，大阪大学）。1984年運輸省海技大学校教養科助手。1987年大阪大学基礎工学部助手。1990年大阪府立大学工学部講師。1994年筑波大学数学系助教授。1997年大阪大学人間科学部助教授。2004年大阪大学大学院基礎工学研究科教授。

授賞理由：因子分析，構造方程式モデル，楕円分布族における統計的推測等において，多くの優れた研究業績を挙げ，論文は国際的な主要学術誌に掲載され高い評価を受けている。また，計量心理学，医薬生物統計学，機械学習等，多岐にわたる分野においても優れた成果を挙げている。そして，因子分析と主成分分析の相違に関して教育的観点

からも有意義な研究があり，さらに，広く社会において，統計学の普及・啓発への貢献が顕著である。

狩野氏のこのような統計学の発展および普及に対する多大な貢献は，日本統計学会賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Kano, Y. (1991). The asymptotic distribution of a noniterative estimator in exploratory factor analysis. *Annals of Statistics* **19**, 272-282.
- [2] Kano, Y., Berkane, M. and Bentler, P.M. (1993). Statistical inference based on pseudo-maximum likelihood estimators in elliptical populations. *Journal of the American Statistical Association* **88**, 135-143.
- [3] Kano, Y. and Harada, A. (2000). Stepwise variable selection in factor analysis. *Psychometrika* **65**, 7-22.
- [4] Shimizu, S. and Kano, Y. (2008). Use of non-normality in structural equation modeling: Application to direction of causation. *Journal of Statistical Planning and Inference* **138**, 3483-3491.
- [5] Kano, Y. and Takai, K. (2011). Analysis of NMAR missing data without specifying missing-data mechanisms in a linear latent variate model. *Journal of Multivariate Analysis* **102**, 1241-1255.

3. 第14回日本統計学会統計教育賞について

赤平 昌文（日本統計学会会長）

2018年日本統計学会統計教育賞は以下のように授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：光永 文彦氏

略歴：2004年 東京理科大学理学部第一部数学科卒業，2006年 東京理科大学大学院理学研究科修了，2006年 実践女子学園中学校高等学校教諭，2014

年 西大和学園中学校・高等学校 教諭（現職），2018年 東京理科大学大学院科学教育研究科 博士後期課程3年（在学中）

授賞理由：統計教育について数学教育，情報教育など中等教育を教科横断の観点から授業実践とともに研究を積極的に推進し，様々な学会において発表していることは優れた貢献として評価される。特に，視覚化した新しいデータの分析の教材によ

る授業実践とともに授業カリキュラムや教材の開発を進めている。また、統計検定運営委員会の委員として統計検定の普及にも尽力していることも評価される。

光永氏のこれらの活動は、これまでの実績に加え、統計教育のこれからの発展に大きく貢献することが期待され、統計教育賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] 光永文彦 (2005). 黒板と電子教材を併用した高等学校数学の授業設計とその実践. 数学教育論文発表会論文集 **38**, 565–570.
- [2] 光永文彦 (2007). 積分法と求積法を接続する指導の一考. 数学教育論文発表会論文集 **40**, 421–426.
- [3] 光永文彦 (2015). 技術科・情報科一貫カリキュラム開発 (1) 課題解決型統計教育カリキュラム. 日本情報科教育学会誌 **8**, 93–94.
- [4] 山本芳人・光永文彦 (2018). 出席率の向上

を目指した Web を使ったクリッカーシステムの開発と評価. 教育システム情報学会誌 **35**, 48–53.

[2] 受賞団体名：E2D3.org (Excel to D3.js)

授賞理由：統計データから、従来の「手書きのグラフ」では表現できなかった「ダイナミックかつインタラクティブなグラフ」を作成することを通じて、統計データに関する学生と市民の興味・知見を従来以上に高めることに尽力していることは、優れた貢献として評価される。特に、Excel からマウス操作のみで D3.js ライブラリーを呼び出せるアプリケーション E2D3 を世界で初めて作成し、そのコードをオープンソースとして公開していることは高く評価される。

E2D3.org (Excel to D3.js) のこれらの活動は、これまでの実績に加え、統計教育のこれからの発展に大きく貢献することが期待され、統計教育賞にふさわしいものである。

4. 第12回日本統計学会研究業績賞について

赤平 昌文 (日本統計学会会長)

2018年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の2名の方々に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名：浅井 学氏

略歴：1994年創価大学経済学部卒業。1998年筑波大学大学院社会工学研究科修了。1999年立命館大学経済学部助教授。2002年東京都立大学経済学部助教授。2005年創価大学経済学部准教授。2008年創価大学経済学部教授。

授賞理由：金融資産のリスク分析における多変量確率的ボラティリティ変動モデルの分野において多数の顕著な業績を挙げている。その貢献は統計理論、モデル化、実証分析と多岐にわたっている。特に、主要な業績として多変量 Ito 過程の外積として導かれる Wishart ボラティリティ変動モデル

の拡張とその推定法の考案、また実現共分散を用いた予測モデルの特定化と予測力の向上に関する研究において優れた成果を挙げている。

浅井氏のこのような統計学の広範な研究分野に対する顕著な貢献は、日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Asai, M. and McAleer, M. (2015). Leverage and feedback effects on multifactor Wishart stochastic volatility for option pricing. *Journal of Econometrics* **187**, 436-446.
- [2] Asai, M. and So, M. K. P. (2015). Long memory and asymmetry for matrix-exponential dynamic correlation processes. *Journal of Time Series Econometrics* **7**, 69-94.

- [3] Asai, M. (2015). Bayesian analysis of general asymmetric multivariate GARCH Models and news impact curves. *Journal of the Japan Statistical Society*, **45**, 129-144.
- [4] Asai, M. and McAleer, M. (2017). The impact of jumps and leverage in forecasting co-volatility. *Econometric Reviews* **36**, 638-650.
- [5] Asai, M., Chang, C. L. and McAleer, M. (2017). Realized stochastic volatility with general asymmetry and long memory. *Journal of Econometrics* **199**, 202-212.

[2] 受賞者氏名：柳原 宏和氏

略歴：1996年広島大学学校教育学部卒業。2001年広島大学大学院理学研究科博士課程修了。博士(理学)。2001年統計数理研究所助手。2003年筑波大学大学院システム情報工学研究科講師。2006年広島大学大学院理学研究科准教授。2017年広島大学大学院理学研究科教授。

授賞理由：多変量線形回帰モデルにおいて大標本・高次元漸近理論に基づいて情報量規準 AIC と BIC の一致性について、従来の知見とは逆の現象の生起を示した成果は顕著な業績である。特に、非正規性の下でも、分散共分散行列の推定量の最大固有値の漸近挙動に基づいてその成果が得られている。また、標準化残差平均和の最小値に基づく規準量でも同様の結果が得られ、正準相関

分析における変数選択問題においても同様な事実が示されている。

柳原氏のこのような統計学の広範な研究分野に対する顕著な貢献は、日本統計学会研究業績賞にふさわしいものである。

主要業績：

- [1] Yanagihara, H., Wakaki, H. and Fujikoshi, Y. (2015). A consistency property of the AIC for multivariate linear models when the dimension and the sample size are large. *Electronic Journal of Statistics* **9**, 869-897.
- [2] Yanagihara, H. (2015). Conditions for consistency of a log-likelihood-based information criterion in normal multivariate linear regression models under the violation of normality assumption. *Journal of the Japan Statistical Society* **45**, 21-56.
- [3] Yanagihara, H. (2016). A high-dimensionality-adjusted consistent Cp-type statistic for selecting variables in a normality-assumed linear regression with multiple responses. *Procedia Computer Science* **96**, 1096-1105.
- [4] Yanagihara, H., Oda, R., Hashiyama, Y and Fujikoshi, Y. (2017). High-dimensional asymptotic behaviors of differences between the log-determinants of two Wishart matrices. *Journal of Multivariate Analysis* **157**, 70-86.

5. 第32回日本統計学会小川研究奨励賞について

赤平 昌文（日本統計学会会長）

2018年度の日本統計学会小川研究奨励賞は、以下の方に授与することが決まりました。

受賞者氏名：小池 祐太氏

受賞論文：Koike, Y. (2017). On the asymptotic structure of Brownian motions with a small lead-lag effect. *Journal of the Japan Statistical Society* **47**, 75-105

受賞論文の評価：小池氏は実現ボラティリティの拡張である実現共分散の推定において顕著な業績を挙げている。受賞論文では、2つのブラウン運動過程の相関にタイムラグがあり、さらに観測値には測定誤差が含まれている場合に、微小なラグ・パラメータをもつときの尤度比過程の漸近的な確率的表現を導出し、推定量の収束レートが通常とは異なる場合があることを示した。また、関

連する成果は、Econometric Theory や Bernoulli 等に発表されている。受賞論文は実証分析への応用

も期待されるものであり、日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしいものである。

6. 細谷賞の創設について

照井 伸彦（東北大学大学院）

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名誉教授の統計学界における教育・研究への貢献を記念して、広く人文・社会科学分野における若手研究者のデータ科学研究を奨励するため、細谷賞を創設します。本賞は、東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学会の後援により実施するもので、受賞者には研究奨励金（10万円）を授与します。人文・社会科学におけるデータ科学の理論および応用研究に努める多くの若手研究者の応募を期待しています。

1. 応募資格

- (1) 過去3年程度以内に、国内外の学術誌に掲載された人文・社会科学分野におけるデータ科学（統計分析・計量経済分析を含む）に関連する論文（単・共著ともに可）の著者であること
- (2) 論文出版時点において40歳未満の者。

2. 応募期限 2019年3月31日必着

3. 応募書類

(1) 申込用紙

(<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/datascience/hosoya/> よりダウンロード)

(2) 審査対象とする論文1編

4. 送付／問合せ先

応募書類をPDFファイルにまとめてEmailにて下記宛に送付のこと

dssr-sec@grp.tohoku.ac.jp

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1

東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科学研究センター

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/datascience/>

5. 発表の通知 2019年6月（予定）

11月（予定）に受賞者を東北大学に招待し、表彰式および受賞記念セミナーを行います。

7. 2018年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第三報）

山本 渉・荒木 万寿夫・川野 秀一・小巻 泰之・寺田 吉彦（大会委員会）

2018年度統計関連学会連合大会の進捗状況を、5月7日付で発表されました第三報からの抜粋に幾つか新しい情報を含めて紹介いたします。詳しい情報や関連する情報は、連合大会のウェブページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/2018/>

に随時掲載されますので併せてご参照ください。

1. 大会日程、開催場所、事前参加申込

開催日程・場所	9月9日(日)：チュートリアルセッションと市民講演会
	9月10日(月)～13日(木)：本大会 (いずれも中央大学・後楽園キャンパス5号館)
主 催	応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会
後 援	中央大学
懇 親 会	9月12日(水)18:30～20:30 東京ドームホテル B1F「シンシア」

事前参加 申込	7月17日(火)13:00～8月20日(月)17:00
------------	-----------------------------

既に講演申込と報告集原稿提出期間は終了しています。大会プログラムは、現在、プログラム委員会により作成中です。確定後のプログラムは、上記ウェブページに掲載されます。

2. 統計関連学会連合大会プレナリーセッション

統計関連学会連合大会は、国際的な学術集会を志向し、海外からの参加者を増やすために英語セッションの増加などの方策を行っています。本セッションは、連合大会 JJSM (Japanese Joint Statistical Meeting) の国際化をさらに推進するために、世界的に著名な研究者として赤池メモリアルレクチャー賞受賞者をお迎えし、受賞者による講演及び討論を統計関連学会連合大会のプレナリーセッションとして統計数理研究所及び統計関連学会連合が共同企画するものです。

日時：2018年9月10日(月) 午前

場所：中央大学・後楽園キャンパス5号館5階5534教室

主催：統計数理研究所、統計関連学会連合大会組織委員会

オーガナイザー：樋口知之(統計数理研究所)、栗原考次(統計関連学会連合)

3. チュートリアルセッションのご案内

いま AI (人工知能) 旋風が巻き起こっています。人工知能への挑戦は、人類が月面に送る挑戦になぞらえて「AI 版アポロ計画」とも呼ばれています。本チュートリアルセッションでは、今年2月に著書『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』を発表された新井紀子氏にご講演いただくことになりました。セッションの前半では新井氏に、AI の可能性と限界、そこから始まるリーディングスキルテスト (RST) の設計と、いくつかの問題の紹介とその正答率から見てきた、現代の中高校生の読解力の恐るべき低さなどについて解説していただきます。セッションの後半では、RST の統計

的基盤の設計をされた尾崎幸謙氏と登藤直弥氏にご登壇いただき、RST の妥当性をどのように担保し、また、今年度から始まる社会普及版をどのように設計したのかについて説明していただきます。時間が許せば、新たに判明した研究成果もご紹介いただく予定です。参加費については、「5. 参加申し込みと大会参加費」をご覧ください。

日時：2018年9月9日(日) 13:00～16:00 (休憩時間を含む)

場所：中央大学・後楽園キャンパス5号館5階5534教室

テーマ：AI vs. 教科書が読めない子どもたち

講演者：新井紀子(国立情報学研究所)、尾崎幸謙(筑波大学)、登藤直弥(筑波大学)

4. 市民講演会のご案内

ビッグデータの活用や AI 技術への注目が集まる中、我が国におけるデータサイエンティストの重要性は高まる一方です。それに伴い、国内におけるデータサイエンティストのリソースは枯渇状態にあります。今回の市民講演会では、上村崇氏をお招きし、データサイエンティストとはどのようなスキルを持った人材を指すのか、また、国内におけるデータサイエンティストの活躍状況や育成環境について解説していただきます。さらに、現在データサイエンス及び AI 技術が、実社会においてどのように活用されているのかを具体的な事例を含めてご紹介いただくとともに、今後我が国においてデータサイエンティストにどのような役割が期待されているのかについてもご説明いただく予定です。なお、市民講演会の参加費は無料ですので奮ってご参加いただければと思います。

日時：2018年9月9日(日) 16:30～18:00

場所：中央大学・後楽園キャンパス5号館5階5534教室

題名：我が国におけるデータサイエンティストの活躍状況

講演者：上村崇(株式会社 ALBERT/ データサイエンティスト協会理事)

5. 参加申込と大会参加費

当日受付の混雑を緩和するため、ウェブページからの事前申込にご協力ください。受付期間は、「1. 大会日程、開催場所、各種受付期間」を参照してください。事前申込の場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費（報告集代を含む）

	事前申込	当日受付
会員（主催6学会の会員）	7,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円

チュートリアルセッション参加日（資料代を含む）

	事前申込	当日受付
会員（主催6学会の会員）	3,000円	4,000円
学生（会員・非会員を問わず）	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

	事前申込	当日受付
一般（会員・非会員を問わず）	9,000円	10,000円
学生（会員・非会員を問わず）	4,500円	5,000円

【注意】

- (1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です。
- (2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料は後日送付いたします。主催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります。
- (3) 市民講演会の参加費は無料です。
- (4) 懇親会は、収容人数に余裕がある場合に限り、オンサイト受付を行う予定です。オンサイト受付のポリシーに関しましては、第四報（8月発行予定）でご案内いたします。

6. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。各自で早めに宿泊の予約をお済ませください。大会会場の中央大学・後樂園キャンパスへは、東京メトロ

丸ノ内線・南北線「後樂園駅」から徒歩約5分、都営三田線・大江戸線「春日駅」から徒歩約6分、JR中央・総武線「水道橋駅」から徒歩約12分、JR中央・総武線「飯田橋駅」から徒歩約17分です。大会会場へのアクセスについてはウェブページ <http://www.chuo-u.ac.jp/access/kourakuen/> もご覧ください。

【託児施設の利用案内】

本大会では、実行委員会指定の託児所を利用される場合、連合大会の予算内にてその費用を補助する運びとなりました。託児所利用費の補助を希望される方は、以下の(1)～(3)の手続きを行ってください。手続きに必要な託児所利用補助申請書と託児費用申請書は、大会ウェブサイト内の「宿泊・観光」ページでダウンロード可能です。

- (1) 8月20日（月）までに託児所利用補助申請書を下記の担当者にメールにてお送りください。
http://www.jfssa.jp/taikai/2018/pdf/pre_support4nursery2018.docx
- (2) 託児所の予約は、各自で行ってください。
- (3) 9月20日（木）までに託児費用申請書と領収書（原本）を下記の担当者に郵送してください。

<http://www.jfssa.jp/taikai/2018/pdf/support4nursery2018.pdf>

なお、予算の関係上、全額の補助ができない場合がありますので、ご了承の程お願いいたします。また、予約にあたっては、指定託児所の所在地を確認されることをお勧めします。

申込・問い合わせ先

担当者：中央大学理工学部 酒折文武（実行委員）

E-mail：sakaori (at) math.chuo-u.ac.jp

（at）を@に置き換えてください。

住所：〒112-8551 東京都文京区春日1-13-27

指定託児所一覧

- キッズルームシビック（800円 / 時間）
<http://www.city.bunkyo.lg.jp/kyoiku/kosodate/okosan/ichijiteki/kidsroom/civic.html>
- グローバルキッズ春日園（1,000円 / 時間）
http://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_015

html

- まるる保育園 (1,200円 / 時間)
<http://maruru.jp/>
- リトルハウス (1,730円 / 時間)
<http://yushima-ikuji-hiroba.life.coocan.jp/>
- スターキッズ保育園 (1,800円 / 時間)
<http://www.star-kids.co.jp/price/>

- I&C キッズスクール (2,160円 / 時間)
<https://www.encourage.co.jp/>
- キッズスクウェア東京ドームホテル (2,500円 / 時間)
http://www.alpha-co.com/ks_tokyodomehotel_shosai.jsp

8. 春季集会のポスターセッションについてのお知らせ

山本 渉 (企画・行事担当)

日本統計学会春季集會に毎年、多くの方々にご参加とご発表を頂いておりますこと、感謝いたします。お陰様で今年度が13回目の開催となります。詳細は続報に譲り、ここでは日程が3月10日(日)、会場は日本大学経済学部をお借りすることをまずはお知らせ致します。

南麻布の統計数理研究所で開催させていただいた第3回の春季集會より始まりましたポスターセッションも順調に発表者が増えて参りました。毎年、厳正かつ公正に審査をさせていただいておりますが、質の高い発表が多く、毎年の表彰の選考は行事委員会の嬉しい悩みのひとつです。

さて、そのポスターセッションにつき今年度より、発表者への旅費の支援と表彰の審査の対象を、当学会の会員となられていらっしゃる方(発表申し込みまでに入会の手続きが完了している方)とさせていただきますことになりました。この変更は理事会と社員総会でご承認頂いております。この変更に至る事情は次の通りです。

春季集會では、会員であることを旅費の支援と表彰のための審査の要件としています。そのために発表申し込み時に、会員でない方へご入会頂けるかどうかをお尋ねしています。ポスターセッションでの発表自体は、共同研究者が会員であれば発表者が会員でなくとも受け付けています。これまで、より多くの皆様にポスターセッションに参加していただきたいと、春季集會の当日まで入会を受け付けて参りました。3月と4月で会員種別が変更になる方もいらっしゃいますが、春季集會が毎年度の最終月の開催のため、申込時に入会するとご連絡頂いた方々や当日に入会を受け付けた方々の実際の入会手続きを、翌年度に向けて進めていただくことが多いようでした。しかし事務局を通じて手続きを進めていく中で、春季集會の終了後に入会を辞退する方もいらっしゃる、手続きの若干の厳格化が必要になってきた次第です。

今後とも、日本統計学会春季集會へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

9. 統計検定の文部科学省後援事業承認の報告

赤平 昌文 (日本統計学会会長)
西郷 浩 (日本統計学会理事長)

日本統計学会の公式認定として2011年に開始された統計検定が、2018年4月25日に文部科学省の後援事業として承認されました。文部科学省では、

団体等が主催する各種の行事等が、文部科学省の推進する施策と密接に関連し、積極的に後援すべきと認められる場合、主催者からの申請に基づき

文部科学省後援名義の使用を許可しています。
2018年度から、統計検定は、日本統計学会公式認

定・総務省後援・文部科学省後援の事業になりましたことを報告いたします。

10. 第2回「赤池メモリアルレクチャー賞」

受賞者および記念講演が決定

統計数理研究所と日本統計学会は2016年に「赤池メモリアルレクチャー賞」を共同で創設しました。故赤池弘次博士の功績を記念し若手人材の育成を促進し、統計科学の発展に寄与するため、同研究分野において顕著な業績を挙げた研究者を対象として2年に1度選出、授賞するものです。

第2回受賞者は、デューク大学の Mike West 教授に決定しました。授賞式および記念講演は2018年度統計関連学会連合大会のプレナリーセッションとして9月10日（月）午前中に行われる予定です。詳しくは日本統計学会のホームページをご覧ください。

11. 理事会・委員会報告（2018年5月12日）

一般社団法人 日本統計学会 委員会 議事録

日時：2018年5月12日（土曜日）午後0時00分～午後2時30分

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階 応用数学科ゼミ室

理事の総数 13名 出席理事の数 12名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：赤平昌文会長、西郷浩理事長、中野慎也（庶務）、村上秀俊（庶務）、山下智志（会計）、青嶋誠（会誌編集欧文）、佐井至道（会誌編集和文）、伊藤伸介（広報）、山本渉（大会・企画・行事）、中谷朋昭（国際）、稲葉由之（渉外）、松田安昌（渉外）（以上12名、カッコ内は役割分担）

監事：岩崎学、中西寛子、中野純司

第1議案 2017年度事業報告について

西郷理事長より、資料に基づき、2017年度事業報告がなされた。審議の結果、承認され、社員総会で諮ることになった。

第2議案 2017年度決算報告について

山下理事より、資料に基づき、2017年度決算報告がされた。審議の結果、承認され、社員総会で諮ることになった。また、統計質保証推進協会に100万円を貸し付けていることを申し送り事項として確認した。

第3議案 監査報告について

岩崎監事より、2017年度事業報告および決算の監査

結果について報告があり、承認され、社員総会で諮ることになった。

第4議案 日本統計学会各賞規程の変更について

西郷理事長および村上理事より、日本統計学会各賞規程に関して、形式を他の規程と揃える、小川研究奨励賞の対象を学会誌掲載論文の著者とするのをやめて広く推薦を募るなどの変更が資料に基づいて提案された。審議の結果、一部修正の上、承認され、最終案が社員総会で審議されることになった。

第5議案 委員会規程の変更について

西郷理事長より、資料に基づき、欧文誌の JJSD 移行に伴う委員会規程の変更が提案された。審議の上、承認され、最終案が社員総会で審議されることになった。

第6議案 理事の選任について

西郷理事長より、資料に基づき、山下会計理事の辞任（2018年6月9日付）の申し出について報告され、審議の結果、承認された。また、新任の理事として玉置健一郎氏を庶務理事、吉田靖氏を会計理事、汪金芳氏を国際理事として委嘱（2018年6月9日付）することが提案された。審議の結果、承認され、社員総会に諮ることになった。

第7議案 常設委員会における委員長・委員の交代について

西郷理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員長および委員の交代について説明があった。審議の結果、承認され、社員総会に諮ることになった。

- ・庶務委員会
村上秀俊委員長より中野慎也委員長に交代（2018年6月9日付）
村上秀俊委員，山下智志委員より玉置健一郎委員，吉田靖委員に交代（2018年6月9日付）
- ・大会委員会
川野秀一委員，寺田吉孝委員より河田正樹委員，福地純一郎委員に交代（2018年10月1日付）
- ・企画・行事委員会
玉置健一郎委員より川崎茂委員に交代（2018年6月9日付）
- ・国際関係委員会
中谷朋昭委員長より大森裕浩委員長に交代（2018年6月9日付）
中谷朋昭委員より汪金芳委員に交代（2018年6月9日付）
- ・JJSD 支援委員会
西郷浩委員，内田雅之委員，金森敬文委員，谷崎久志委員，松田安昌委員を追加（2018年6月9日付）

第8議案 臨時委員会における委員長・委員の交代について

西郷理事長より，資料に基づき，臨時委員会の委員長および委員の交代について説明があった。審議の結果，承認され，社員総会に諮ることになった。

- ・JSS-Springer 編集委員会
狩野裕委員より谷口正信委員，星野崇宏委員に交代（2018年4月1日付）

第9議案 学会賞設置の原則について

西郷理事長より，資料に基づき，新たに学会賞を設置する場合の原則について提案があり，審議を行った。また，1月の委員会で議論になった東北大学経済学部同窓会の賞創設の申し出に関しては，日本統計学会の賞とはしないが，賞の運営には協力することが了承された。

第10議案 会員の入退会

西郷理事長より，回収資料に基づいて入退会希望者および会員種別変更依頼の説明があり，承認され，社員総会に提出することになった。

第11議案 社員総会招集の件

赤平会長より，社員総会を以下の通り招集する旨が提案され，承認された。

1. 日時 2018年6月9日（土）13：30～15：00
2. 場所 早稲田大学3号館（早稲田キャンパス）7階704教室
3. 会議の目的
(1) 規程の変更について

- (2) 社員総会における通常の審議

一般社団法人 日本統計学会 委員会 議事録

日時：2018年5月12日（土曜日）午後2時30分～午後3時30分

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階 応用数学科ゼミ室

出席：理事12名，監事3名，計15名

赤平昌文会長，西郷浩理事長，中野慎也，村上秀俊，山下智志，青嶋誠，佐井至道，伊藤伸介，山本渉，中谷朋昭，稲葉由之，松田安昌，岩崎学（監事），中西寛子（監事），中野純司（監事）

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

青嶋委員長より，JJSD 創刊号の原稿が締め切れ，原著論文がJJSD からの引き継ぎ1編を含めて2編，特集9編の計11編を掲載する予定との報告があった。また，次号以降に掲載する論文の投稿状況，次号以降の特集の予定などについて報告があった。

2. 和文誌編集委員会

①第32回小川研究奨励賞の受賞者について

佐井委員長より，第32回小川研究奨励賞受賞者に関して，編集委員会による審査結果の報告があり，受賞候補者の意向を確認した上で社員総会で報告する旨が報告された。

②和文誌の編集状況について

佐井委員長より，4月に第47巻2号が発刊された旨と，第48巻1号に関して，特集4編，学会賞寄稿2編，原著論文3編が査読中である旨の報告があった。

3. 大会委員会

山本委員長より，統計関連学会連合大会の第三報が出され，26件の企画セッションが企画されている旨の報告があった。

4. 企画・行事委員会

統計教育委員会を春季集会の一環として春季集会の予算で開催する案に関して，統計教育委員会が希望していないことが報告された。

5. 庶務委員会

①内閣府経済社会総合研究所の団体会員としての入会について

村上委員長より，資料に基づき，内閣府経済社会総合研究所が日本統計学会の団体会員としての入会が承認されたことが報告された。

②健康科学研究ネットワークの入会について

村上委員長より，健康科学研究ネットワークへの入会が承認されたことが報告された。また，5月28日に

開催される健康科学研究ネットワーク総会に赤平会長が出席予定であることも併せて報告された。

③電子ジャーナル化に関する覚書の終了について

村上委員長より、欧文誌のJJSDへの移行により、欧文誌のJ-STAGE利用取り下げの連絡をする必要があったため、現在手続き中である旨の報告があった。

④統計数理研究所との連携・協力に関する協定の締結について

中野委員より、資料に基づき、統計数理研究所との連携・協力に関する協定が締結された旨が報告された。

⑤赤池メモリアルレクチャーについて

中野委員より、資料に基づき、第2回赤池メモリアルレクチャー賞の受賞者が決定した旨と、赤池メモリアルレクチャーが統計関連学会連合大会においてプレナリーセッションとして開催される旨が報告された。

6. 広報委員会

伊藤委員長より、会報175号刊行と、176号の原稿募集が間もなく開始される旨の報告があった。また、統計関連学会連合大会第三報がWebに掲載された旨、およびWebの年会費振込サイトの英語版の準備を進めている旨が報告された。

7. 国際関係委員会

中谷委員長より、統計関連学会連合大会において国際セッションを4つ（Wakimoto memorial session および CSA-KSS-JSS 合同セッションを3件）企画している旨が報告された。また、6月末に日本・台湾・韓国の3カ国合同の研究集会が台南で開催され、データサイエンス教育関連のセッションを企画している旨が報告された。

8. 渉外委員会

①科研費「国際情報発信強化」の審査結果について

松田委員より応募していた科研費が不採択となった旨が報告された。

②統計検定について

稲葉委員長より、6月17日に統計検定（準1級、2級、3級、4級）が実施される旨と、4月25日に統計検定が文部科学省の後援事業に認定された旨が報告された。

9. その他

①ISI 東京大会記念奨励賞に関する申し合わせ事項の変

更について

西郷理事長より、資料に基づき、ISI 東京大会記念奨励賞に関する申し合わせ事項に関して、受賞者の資格を40歳未満ではなく35歳未満に変更する旨が報告された。

②一般財団法人 統計質保証推進協会からの春季集会におけるポスター発表表彰への副賞提供の提案について

西郷理事長より、統計質保証推進協会から春季集会において「統計検定センター長賞」としてポスターセッションの優秀者に各1万円の副賞を提供するとの申し出があった旨の報告があり、了承された。

③2017年度統計教育連携ネットワーク（拡大版JINSE）中間報告について

西郷理事長より、JINSEの事後評価結果が出た旨と拡大版JINSEの中間報告がなされた旨の報告があった。

<審議事項>

1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

審議事項なし

5. 庶務委員会

審議事項なし

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. その他

村上庶務委員長より、これまで日本統計学会欧文誌と韓国統計学会誌との交換を行ってきたが、JJSDを韓国統計学会に送付するのはSpringerとの契約上問題になるとの問題提起があり、韓国統計学会に日本統計学会欧文誌廃刊の旨を伝えることが了承された。

12. 社員総会報告

日時：2018年6月9日（土曜日）午後1時30分～午後3時

場所：早稲田大学早稲田キャンパス3号館7階704教室

出席者：赤平昌文会長，代議員：伊藤聡，岩崎学，金藤浩司，鎌倉稔成，川崎茂，西郷浩，清水誠，瀬尾隆，竹内光悦，田村義保，椿広計，中野純司，西井龍映，樋口知之，前園宜彦，南美穂子，山下智志，若木宏文，渡辺美智子（以上出席代議員19名，委任状提出11名，議決権行使書5名）（オブザーバー：村上秀俊，中野慎也，吉田靖，山下智志〔山下理事は代議員であるが，会計理事としても参加〕）

冒頭，赤平会長より定足数を満たしていることを確認の後，開会宣言がなされ，オブザーバー4名の出席が承認された。赤平会長より，議事録著名人として鎌倉稔成代議員，若木宏文代議員に依頼する旨説明があり，承認された。

審議事項

第1議案 日本統計学会委員会規程の変更に関する承認

赤平会長より，資料に基づき，日本統計学会欧文誌がJapanese Journal of Statistics and Data Scienceに移行したことに伴って日本統計学会委員会規程を変更し，従来の欧文誌編集委員会を「JJSD 支援委員会」とし，欧文誌編集担当理事を「JJSD 担当理事」とすることが提案され，審議の結果，承認された。

第2議案 日本統計学会賞規程の変更に関する承認

赤平会長より，資料に基づき，日本統計学会賞規程を変更し，他規程と同様の条文形式にする他，委員会規程の変更に伴い「欧文誌担当理事」を「JJSD 担当理事」とする提案がなされ，審議の結果，一部修正の上，承認された。

第3議案 日本統計学会統計活動賞規程の変更に関する承認

赤平会長より，資料に基づき，日本統計学会統計活動賞規程を他規程と同様の条文形式に変更する提案がなされ，審議の結果，承認された。

第4議案 日本統計学会統計教育賞規程の変更に関する承認

赤平会長より，資料に基づき，日本統計学会統計教育賞規程を変更し，他規程と形式を揃える他，一部文

言の修正を行う提案がなされ，審議の結果，一部修正の上，承認された。

第5議案 日本統計学会研究業績賞規程の変更に関する承認

赤平会長より，資料に基づき，日本統計学会研究業績賞規程を変更し，他規程と形式を揃える他，「欧文誌担当理事」を「JJSD 担当理事」に修正，対象論文を過去「3年程度」から「5年程度」に拡大するなどの修正を行う提案がなされ，審議の結果，一部文言の修正の上，承認された。

第6議案 日本統計学会出版賞規程の変更に関する承認

赤平会長より，日本統計学会出版賞規程を変更し，他規程と形式を揃える他，授賞対象範囲に「会員・非会員の別を問わない」を追加する提案がなされ，審議の結果，一部修正の上，承認された。

第7議案 日本統計学会小川研究奨励賞規程の変更に関する承認

赤平会長より，日本統計学会小川研究奨励賞規程を変更し，他規程と形式を揃える他，日本統計学会欧文誌のJapanese Journal of Statistics and Data Scienceへの移行に伴い，授賞対象を日本統計学会誌掲載論文に限定せず，会員から推薦を募集する形式に変更する旨の提案がされ，審議の結果，一部文言の修正の上，承認された。

第8議案 理事の選任に関する件

赤平会長より，資料に基づき，山下智志理事が辞任，村上秀俊理事，中谷朋昭理事が退任し，会計担当の新任理事として吉田靖氏，庶務担当の新任理事として玉置健一郎氏，国際担当の新任理事として汪金芳氏を選任する提案があり，審議の結果，承認された。

第9議案 常設委員会における委員長・委員の交代・追加に関する件

赤平会長より，資料に基づき，常設委員会における委員長・委員を交代する提案があり，審議の結果，承認された。

第10議案 臨時委員会における委員の交代に関する件

赤平会長より，資料に基づき，JSS-Springer 編集委員会の委員を一部交代する提案があり，審議の結果，承認された。

2017 年度事業報告

(2017. 4. 1～2018. 3. 31)

0. 学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として7年目を迎え、2年周期の学会事業を法人として4周年目の初年度を終えることになる。運営の経験を蓄積したことを生かし、赤平昌文会長、西郷浩理事長を含む13名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員の運営により、改革にも積極的に取り組んだ。日本統計学会欧文誌を発展的に Japanese Journal of Statistics and Data Science へ移行、年会費・入会金のクレジットカード決済システムの導入、年会費減免制度の導入、統計検定事業の継続、M00C 講座の体系化、各講座の内容の企画など、統計学の普及に大きく貢献した年度であった。

2018年3月19日現在の会員の数は1,479である(名誉会員16,正会員1,396,学生会員67,賛助会員18,団体会員7)。

1. 出版編集事業

1. 欧文誌の発行

欧文誌2号[Vol. 47 No. 1(6月), No. 2(12月)]を発行した。

内訳は原著論文13編, 全291ページであった。

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費「国際情報発信強化」に不採択であった。

2. 和文誌の発行

和文誌2号[第46巻シリーズ]第2号(6月), 第47巻シリーズ]第1号(9月)]を発行した。

内訳は原著論文3編, 受賞者特別寄稿論文6編, 会長就任講演, その他を合わせ全178ページであった。

3. 会報の発行

No. 171(4月), No. 172(7月), No. 173(10月), No. 174(1月)を発行した。

4. JSS Research Series in Statistics シリーズの出版

昨年度に引き続き, JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った。2018年3月現在11冊が出版済みであり, JSS-Springer 編集委員会では今後10冊以上の出版を予定している。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第85回大会の開催

2017年9月3日(日)～6日(水), 南山大学において, 統計関連学会連合大会の一環として開催した。企画セッションとして, 日本統計学会会長講演, 日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式, 会員集会), JSCS-JSS International Session 1件を行った。

2. 春季集会の開催

2018年3月4日(日)に第12回春季集会を早稲田大学において開催した。参加者は192名であった。

3. 研究分科会の活動

現在, 以下の分科会が活動中である。

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査: 2009年6月発足, 2021年5月終了予定)
「統計教育分科会」(藤井良宜主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)
「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)
「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敦主査: 2009年9月発足, 2017年8月終了)

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため, 以下の賞を授与した。

第22回日本統計学会賞: 青嶋 誠、清水 邦夫、筑瀬 靖子
第13回日本統計学会統計活動賞: 田村 義保
第13回日本統計学会統計教育賞: 堀場 規朗、埼玉県統計教育研究協議会
第11回日本統計学会研究業績賞: 加藤 賢悟、鈴木 大慈、星野 崇宏
第10回日本統計学会出版賞: 西内 啓
第31回日本統計学会小川研究奨励賞: 田畑 耕治

2. 各種委員会の活動

社員総会(2017年6月10日, 2018年3月3日)を開催した。

理事会(2017年5月13日, 6月10日, 7月15日, 12月9日, 2018年1月27日)を開催した。

役員・代議員協議会(2017年9月3日)を開催した。

その他の各種委員会を適宜, 開催した。

3. 広報活動の充実

メール・ウェブサイトの使用やウェブサイトの充実により, 各種情報発信を促進した。

4. 入会者の拡大

新たな会員として準会員を導入した。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施

2017年6月18日(日)と11月26日(日)に, 日本統計学会が認定団体となり, 公益財団法人統計情報研究開発センターおよび一般財団法人統計研究会の共催の下に, 一般財団法人統計質保証推進協会が「統計検定」を実施した。また, 2017年5月19日(金)～21日(日)には, RSS/JSS 試験を統計検定の一環として行った。

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC のプラットフォーム gacco において、「統計学 I：データ分析の基礎」、「統計学 II：推測統計の方法」および「統計学 III：多変量データ解析法」を開講した。また、これらの講座のスタディノートを編集した。

V. その他 なし。

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

一、事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。

二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

事業報告附属明細書

附属明細書に記述すべき事項はない。

2018 年 4 月 25 日

一般社団法人日本統計学会

監事

岩崎 淳

監事

中西 寛子

監事

中野 純司

第11議案 2017年度事業報告及び決算の承認に関する件

赤平会長および山下理事より、資料に基づき、2017年度事業報告、決算報告が行われた。岩崎監事より監査の結果、特に問題はなかったことが報告され、事業報告、決算報告が承認された。

報告事項（理事会報告）

1. 会員の入退会

西郷理事長より、回覧資料に基づき、会員の入退会について報告があった。

報告事項（委員会報告）

1. 2018年度統計関連学会連合大会について

西郷理事長より、2018年度統計関連学会連合大会が2018年9月9日(日)～13日(木)に中央大学後楽園キャンパスで開催され、企画セッションとして、日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演・Wakimoto memorial session・CSA-KSS-JSS 合同セッション・Akaike memorial lecture が予定されている旨報告があった。

2. 2018年3月開催の春季集会の報告

西郷理事長より、2018年3月4日(日)に早稲田大学で開催された第12回日本統計学会春季集会について報告があった。また、これまでポスター発表を行う学生会員に旅費を出していたが、会員資格確認のタイミングを参加申込時点とする予定である旨の説明があった。

3. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

赤平会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞の受賞者について以下のように報告があった。

日本統計学会賞：大森裕浩氏、狩野 裕氏

研究業績賞：浅井 学氏、柳原宏和氏

統計教育賞：光永文彦氏、E2D3.org (Excel to D3.js)

代表 五十嵐康伸氏

小川研究奨励賞：小池祐太氏

4. 科研費（国際情報発信強化）の不採択について

西郷理事長より、科研費「国際情報発信強化」に応募し、不採択となった旨の報告があった。

5. ISI 東京大会記念奨励賞に関する申し合わせ事項の変更について

西郷理事長より、ISI 東京大会記念奨励賞に関する申し合わせ事項に関して、受賞者の資格を40歳未満ではなく35歳未満に変更する旨の報告があった。

6. その他

西郷理事長より、一般財団法人統計質保証推進協会から、春季集会におけるポスター発表表彰への副賞提供の提案があった旨の報告があった。

報告事項（その他）

1. J-STAGE への欧文誌論文掲載終了について

村上庶務理事より、Journal of the Japan Statistical Society (JJSS) が Japanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) に移行したことに伴い、欧文誌の論文の J-STAGE 掲載は終了し、JJSD の論文は J-STAGE では公開されなくなる旨の報告があった。また、JJSS, Vol.47, No.2までは、引き続き J-STAGE で閲覧可能である旨も報告された。

2. 日本統計学会欧文誌と韓国統計学会誌の交換の終了について

村上庶務理事より、これまで日本統計学会欧文誌と韓国統計学会誌との交換を行ってきたが、JJSD への移行に伴い、それができなくなったため、終了の連絡をした旨の報告があった。

3. 京都大学経済研究所の国際共同利用・共同研究拠点申請に当たっての支援要請について

赤平会長より、上記要請に対して、会長名で国際共同利用・共同研究拠点認定要請書を提出した旨の報告があった。

13. 博士論文・修士論文の紹介

最近の修士論文・博士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。(敬称略)

博士論文

● (1) 八木文香 (2) 博士(理学) (3) 東京

理科大学 (4) Some tests for mean vectors with monotone missing data (5) 瀬尾隆 (6) 2018年3月

修士論文

● (1) 内藤寿輝 (2) 修士(理学) (3) 東京理科大学 (4) T^2 Type Test Statistic and Simultaneous

14. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します.

●江村剛志 (Emura T), 程毅豪 (Chen YH) 著,
「Analysis of Survival Data with Dependent
Censoring, Copula-Based Approaches」JSS
Research Series in Statistics, Springer, 2018年
4 月, 6331円 (税込)

内容紹介: 打ち切りが独立でない場合の生存時間データをコピュラを使って解析する統計手法を紹介している. 非独立打ち切り (Dependent censoring) の問題に焦点を置いたはじめての専門書である. コピュラを使った統計手法を, 医学研究における患者生存期間への適用例を用いて解説しているが, これらは信頼性研究の故障時間解析

にも適用可能である. 大学院生や (生物) 統計家向けのコースの教科書として使用できる. コピュラを使った二次元生存時間の統計モデルに関する数理的基礎も提供している.

●山村吉信著, 『問題解決のための R と JAGS 〜小中高で学ぶ統計からベイズ統計, サンプルサイズまで』東京図書, 2018年 5 月, 2800円+税

内容紹介: 統計が (急に) 必要になった社会人のための統計入門書. 初歩的な事柄の復習から実際に問題解決に活かすまでを, 常に R や JAGS (ベイズ階層モデルの分析プログラム) を走らせながら学ぶ. 手を動かすことで確率分布や仮説検定など統計用語の意味を実感できる.

15. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2018年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います. 会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします. 速やかな納入にご協力をお願い申し上げます. 便利な会費自動払込制度もご用意しています. 次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい. また, クレジットカードでの学会費払込も受け付けております. お申込みは学会ホームページよりお願いいたします. (<http://www.jss.gr.jp/fee/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住所を以下にお伝えください. 手続きに必要な書類が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

入会承認

伊藤陽一, 井上嵩浩, 井上希, 大橋渉, 河口裕,
北村祐, 蔡晶瑜, 佐藤駿, 澤口聡子, 塚本高浩,
寺田亘, 中園善行, 一ツ木俊通, 藤井義靖, 道前
洋史, 劉焰 (敬称略)

退会承認

秋山豪太, 荒木健司, 有田清三郎, 有田富美子,
安藤公次, 池田展敏, 井上勝雄, 今井良夫, 植松
和毅, 太田佐栄子, 小川春男, 黒河天, 栗田正秀,
坂元保秀, 桜本光, 佐藤良亮, 澁谷隆俊, 杉村徹,
高須佑哉, 高松伸一, 田畑稔, 戸田淳仁, 豊田敬,

成定里加子，橋本次郎，原田耕平，東出卓朗，茂
木嶺志，門間麻紀，山崎昌彦，吉田敦（敬称略）
長期連絡不能により退会したとみなされた会員
岩崎匡泰，河村一知，倉上弘幸，竹内琢磨，田坂
誠男，土井誠，東田啓，宮本和俊，村越雅司，柳
沼寿，渡邊中穂美（敬称略）

現在の会員数（2018年5月16日）

名誉会員	17名
正会員	1,381名
準会員	1名
学生会員	35名
総計	1,434名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

16. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの，会員に有益である
と考えられるものなどについて原稿をお送りくだ
さい。以下のような情報も歓迎いたします。

●来日統計学者の紹介

訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人など
をお知らせください。

●博士論文・修士論文の紹介

（1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）
論文題名（5）主査または指導教員（6）取得年
月 をお知らせください。

●求人案内（教員公募など）

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月を
お知らせください。紹介文を付ける場合は100
字程度までとし，主観的な表現は避けてくださ
い。

●会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文
書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致し
ます。

原稿送付先：

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部
伊藤 伸介 宛
E-mail：koho@jss.gr.jp
（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp